

史料群番号 78

史料群名	なかつか 中塚家文書		旧所蔵者	中塚欣二
探訪時住所	岡山県小田郡神島内村			
現在の住所	岡山県笠岡市			
探訪年月	(昭和25年7~8月)			
史料の年代	貞享2(1685)年~昭和19(1944)年	史料の総点数	(約6300点)	
年代の内訳	近世 約1620点/近代 約3680点/不明 約1000点	筆写稿本	なし	
既刊行目録	なし			

収蔵にいたる経緯

探訪に関する記録はないが、岡山県神島内村の調査は昭和25年夏に行われており、いくつかの史料群を収集している。おそらく、本史料群もこの際に収集されたものと考えられる。

史料群の概要

探訪地の小田郡神島内村(こうのしまうちむら)は、近世の村名は神島内浦で、明治22年に合併によって神島内村となり、昭和28年に笠岡市の一部となった。

神島(こうのしま)は瀬戸内海の小島で、笠岡諸島に属する。本土側の神島内浦と瀬戸内海側の神島外浦があった。昭和41年から始まった笠岡湾干拓で、現在は神島は本土と地続きになっている。

本史料群は、17世紀から昭和に至るまでの中塚家の一括史料群である。中央水産研究所所蔵の古文書としては、前川善兵衛家文書(岩手県)と並ぶ分量を誇る。内容は多岐にわたるが、最も多くを占めるのが、土地・年貢関係で、幕末から明治初期にかけて新開地開拓関係の帳簿類が見える。近世の史料は年貢関係がほとんどである。これは中塚家が近世神島内村の村役人を勤める家だったことを示している。漁業関係も一部含まれているが、近世のものはほとんどなく、全体に分量も少ない。神島内漁業組合の運営に関する帳簿や鯖網船を売却した際の證文などが残されている。塩田や山林経営の史料も見られる。

近代の史料が6割を占めるが、その大半は神島内村の村政に関するもので、村議会の記録や徴兵にともなう事務書類など多岐にわたっている。中塚欣二氏は明治期に神島内村の村長を勤めていた(「神島内村役場文書」参照)。

